



● 集落内細街路の石畳は、積極的に保存・保全を図る。  
(玉城村、前川)



● 井泉(か)は、集落内で景観の核になっている。  
(玉城村、仲渠)



● 集落ゲートのツマナシ。  
(大宜味村、大宜味)



● 集落の玄関口を演出するガジュマルの大木。(竹富島)



● 道路拡張に際してツギの屋敷林を保存し、景観資源として活かす。  
(久米島 真謝)



● 屋敷林のツギを残しつつ、舗装整備された集落内道路  
(波照間島)



● 集落前面で整備された環境施設帯。  
(国頭村)



● 集落前面の防湿林が道路景観のメロの構成要素となっている。  
(伊平屋島、我喜屋)



● 景観形成の視点

歩行者のための道路であり、快適な歩行空間とするとともに、休憩・休息のためのオープンスペースとして潤いのある景観形成が求められる。

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔地域の自然・文化生活を結ぶ道〕	1. 樹林や斜面緑地・河川等の自然資源と、地域の文化財や拠点施設等の文化・社会資源とを効率的に結びながら、周辺住民の生活軸となるようなネットワーク路として整備する。 2. 交通量の多い幹線道路からはある程度距離をおいて設ける。	
〔快適な歩行空間の形成〕	3. 歩行者の視点で、人間味豊かな景観形成を行う。街路樹やストリート・ファニチャー、分かりやすく景観になじむ道標や案内板を設ける。 4. せせらぎ等の水修景を導入するなど、潤いのある景観形成に努める。 5. 歩行者のための緑陰を設ける。 6. 要所で緑のまとまりを設け、アクセント景観をつくる。 7. 道の線形は、必ずしも直線的等幅員にこだわらず、多少の折れ曲がりや隅違い等を取り入れ、より変化のある豊かな景観とする。	P15 デザイン2(2) P41 デザイン9(2)
〔オープンスペースの形成〕	8. 要所で休憩・休息のための空間を設ける。 9. 地域の交流の場として整備するなど、周辺地区の人々の「街の庭」として整備する。	P11 デザイン1(1)  P36 デザイン7(2)  P12 デザイン1(3)



● 豊かな緑陰の中の歩行者道路、足元はすっきりとしたイメージとなっている。(シガポール)



● テキサス州でも、花と緑で建造物の景観を緩和している。(シガポール)



● 花の植栽が歩行者の道を演出する。(竹富島)



● 自然の素材の組み合わせにより、歩く楽しみを演出する遊歩道。(福州園)



● 景観形成の視点

広域をネットワークする道として各地の史跡・文化財等の歴史・文化拠点や景勝地、レクリエーション拠点を有機的に結ぶ。また、その途上においても豊かな自然や美しい風景が享受できるようなレクリエーション道路としての景観形成が必要である。

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔地域の自然・歴史・文化を結ぶ道〕	1. 歴史環境の保全活用を図りながら眺望景観等より良好な景観を有するルートを設定する。 2. 地域の歴史・文化資源を結ぶとともに、歴史的な道筋を辿るようなネットワーク整備を図る。 3. 自転車道としての線形と縦断に配慮し、安全で快適な道をつくる。 4. 利用者のための休憩スポットを要所で整備し、ステーション機能や情報、案内機能の充実を図り、豊かな地域情報の提供を心掛ける。	P.35 デザイン7(1)
〔地域の生活を結ぶ道〕	5. 豊かな緑陰を形成させ、緑のスポット整備も行う。 6. 登下校時等、地域の日常生活にも利用されるような空間としてネットワーク整備を検討する。	P.16 デザイン2(3)



● 緑の中の自転車道。

(沖縄県)



● 王朝時代の旧道もサイクリングロードのルート対象とする。  
(沖縄本島北部レクリエーション基地開発整備計画  
S. 53.3 沖縄総合事務局)



● 自然景勝地をネットワークする。  
(沖縄のみち整備基本計画 H.2 沖縄県)



● ルート上の眺望景観を積極的に活用する。  
(沖縄のみち整備基本計画 H.2 沖縄県)

●景観形成の視点

橋梁は、道路（河川）空間における主要構造物であり、景観のノード（結節点）及びシンボルとなる。従って、地域の特性や道路（河川）特性を十分に把握したうえで、個性豊かな橋梁景観を形成させる。

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔生態系への配慮〕	1. 自然景勝地での橋梁整備では、現状の自然を極力傷めないように配慮し、橋脚等の構造物の配置や規模の分割を工夫する。 2. 山間部の橋梁整備では、現況の斜面林や自然林をできるだけ保存・保全する。 3. 海岸部の橋梁整備では、潮流やサゴ等海の生態系に配慮する。	P <sup>23</sup> テ <sup>3</sup> イン3(8) P <sup>33</sup> テ <sup>3</sup> イン6(1) P <sup>23</sup> テ <sup>3</sup> イン3(8) P <sup>37</sup> テ <sup>3</sup> イン8(1)
〔自然景観との調和〕	4. 周辺景観との調和を図るため、周辺の主要な視点上からの見え方、橋上からの眺望などの予測検討を充分行う。	P <sup>126</sup> フ <sup>0</sup> ロセ1(1) P <sup>131</sup> フ <sup>0</sup> ロセ2(2)
〔ゲート・シンボル景の創出〕	5. 街や島の出入口に位置する橋梁は、その街や島のゲート空間として、象徴性、ゲート性が感じられるような形態等の工夫を図る。 6. ライトアップ等夜間の景観演出にも配慮する。	P <sup>35</sup> テ <sup>3</sup> イン7(1)
〔沖縄らしさの表出〕	7. 橋梁構造物の形態に歴史性・文化性を付与し、沖縄らしい橋梁景観を創出する。形態としての石造アーチや素材としての琉球石灰岩などを用い、歴史的なイメージを積極的に活用する。	P <sup>31</sup> テ <sup>3</sup> イン5(5) P <sup>44</sup> テ <sup>3</sup> イン10(2) P <sup>46</sup> テ <sup>3</sup> イン11
〔橋詰広場の整備〕	8. 橋梁は橋詰部や河川と一体的な整備を図る。橋梁広場を整備し、場所に応じてアイキャッチャーとなるモニュメントやシンボルツリー(大樹)を設ける。	P <sup>12</sup> テ <sup>3</sup> イン1(3)
〔豊かな橋上空間〕	9. 橋上の幅員、とくに歩道の幅員をゆったりと取る。 10. 橋上空間は、景観の拠点場となる。眺望や通景(ビスタ)を楽しむ場所として、橋上にアローブ(たまり空間)や休憩テラスを積極的に設ける。 11. 歩行者空間として、視線高での景観に配慮し、高欄や舗装等、橋面工を工夫する。又、空間にゆとりのある場合は、ストリート・ファニチャーや照明柱などで景観を演出する。	P <sup>22</sup> テ <sup>3</sup> イン3(6) P <sup>35</sup> テ <sup>3</sup> イン7(1) P <sup>46</sup> テ <sup>3</sup> イン11
〔構造物の修景〕	12. 素材や形態、色彩を検討工夫し、高架構造物や橋脚の修景や積極的な修景緑化を図る。	P <sup>37</sup> テ <sup>3</sup> イン8(1) P <sup>39</sup> テ <sup>3</sup> イン9 P <sup>42</sup> テ <sup>3</sup> イン10
〔橋下空間の修景活用〕	13. 高架下の空間はオープンなすっきりとしたものとし、場所に応じて修景緑化を図る。また、高架下の空間を公園・広場として整備し積極的な活用を図る。	P <sup>24</sup> テ <sup>3</sup> イン3(10) P <sup>33</sup> テ <sup>3</sup> イン6(2)





●線と軽快な構造物の構成によって海のゲート景をつくる。  
(シカゴポール)



●橋の全体のシルエットは水平線との関係を重視する。  
(池間大橋)



●橋脚のデザイン、工法に配慮し、周辺の自然改変を最小に抑制している。  
(具志頭村)



●シボリックな橋梁の眺望スポットとして橋詰広場を整備する。  
(とよみ大橋)



●高架橋下の空間を周辺土地利用に連続させ、ゆとりのある緑地を形成している。  
(シカゴポール)

古宇利大橋 (仮称)

PC連続V脚ラーメン橋+PC連続箱桁橋



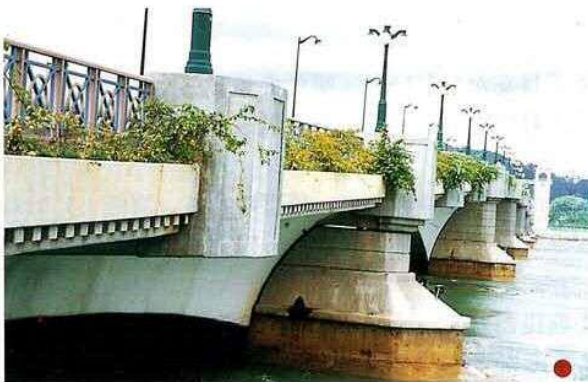
古宇利島側

屋我地島側

風天母展望台よりの眺望

自然公園区域に計画されている橋で、周辺景観に調和した縦断、橋梁形式、橋脚、桁形状を検討する為のモデルジョ

(今帰仁村 古宇利島)



●大規模な橋梁への積極的な緑化を図り、ゆとりと風格のある橋梁景観を形成している。  
(シカゴポール)



●単調になりがちな長大な構造物にアーチをリズム加につなぐことで谷間の農地と調和した景観となっている。  
(石川市 沖縄自動車道)

●景観形成の視点

トンネルは、道路を構成する他の構造要素とともに、道路内外の景観の要素として重要である。特にポータル（抗門）の立面設計では特別な景観的配慮が必要であり、周辺地形、集落、植物相などの地域条件と整合すること、また内景観としてのシーン、シーケンスも十分検討することが大切である。

トンネルは、大小地山の底辺に建設されることの多い構造物で、その立地・形態特性から、土圧に抵抗し十分な安全機能を満足することが前提として求められる。

(サブテーマ)

自然を生かす

(展開項目)

○自然を守り、生かす

(キーワード)

〔自然との調和、生態系への配慮〕

(配慮すべき事項)

1. ポータルの設置位置と関わる路線選定や道路線形等の計画においては、できるだけ自然の地形との調和に配慮し、周辺の生態系に配慮し、自然改変をできるだけ小さくするよう工夫する。

(参照)

P13  
デザイン4(2)

(サブテーマ)

自然を生かす

(展開項目)

○自然を回復し、創り出す

(キーワード)

〔自然の復元・再生、豊かな緑の創出〕

(配慮すべき事項)

1. ポータル周辺の環境形成林等、自然の積極的な復元・再生、新たな緑の創造を検討する。

(参照)

P15  
デザイン2(2)

(サブテーマ)

文化を活かす

(展開項目)

○地域から学び、地域になじむ

(キーワード)

〔地域特性の把握〕

〔景観資源の活用〕

〔周辺景観との調和と対比〕

〔周辺との景観の連携〕

(配慮すべき事項)

- トンネルへのアプローチ道路沿いの集落や土地利用の状況等から地域の特性をとらえ、それに応じた景観形成の方針をたてる。
- ポータル周辺及び主要な視点場との間にある景観資源を取り込み、活用する。
- 周辺環境条件を踏まえ「目立たせない」「馴染ませる」「強調する」といった景観形成方針に沿ってデザインの複数案を検討する。
- 専門家や住民の意見も参考として採り入れ、模型の作成、官能テストの実施やコンピューターグラフィックによる検討も望まれる。
- 地山の状況との調和を前提として、沿道集落内やトンネルにアクセスする道路空間内に主要な視点場を設定し、トンネルの遠景、中景、近景としての存在を十分考慮する。

(参照)

P128  
デザイン1(3)

P129  
デザイン1(3)

P130  
デザイン2(1)

P134  
デザイン2(1)

P131  
デザイン2(2)



施設類型	(12) トンネル	トンネル 2
------	-----------	--------

(サブテーマ) 文化を活かす	(展開項目) ○文化を受け継ぎ、育む
-------------------	-----------------------

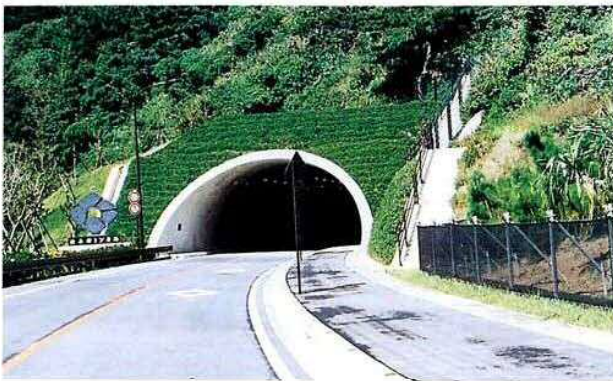
(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔歴史・文化イメージの表現〕	1. 沖縄の歴史・文化を表現した個性豊かなものを検討する。 〔参考となる歴史・文化的要素の例〕 ・城跡石積、シーサー、緋・紅型の模様、など。	P46 デザイン11

(サブテーマ) くらしを彩る	(展開項目) ○開かれた場を創りだす
-------------------	-----------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔周辺とのつながり〕	1. 隣接して公園や河川、公開空地等が立地する場合、残地やへた地がある場合その一部が道路敷と一体的となるよう配慮したり、積極的に取り込み環境形成及び景観形成の対象要素として整備を図る。	P37 デザイン8

(サブテーマ) くらしを彩る	(展開項目) ○いきいきとした場をつくる
-------------------	-------------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔景観材料〕	1. 素材としては地山岩、コンクリート、レンガ、加工天然岩等があり、景観形成方針に沿って色やきめを重視した選定をする必要がある。素材は、出来るだけ地域で得られる材料を用いることが望ましい。	P42 デザイン10



●ポータル形状を竹割り式にすることで入口部を明るく、実際より広く見せている。法面は、植栽が施されソフトに処理されている。(国頭村、新与那トンネル)



●ポータル法面を植生回復させて人工物を極力減らしている。

(滋賀県 西大津バypass)

●景観形成の視点

河川は、連続するオープンスペース（公共空地）のネットワークを形成すると同時に、水辺と河川敷が特有の景観をつくり出している。

沖縄では大規模な河川の発達はあまり見られないものの、地形、土壌、植生などと密接に関わりながら、亜熱帯特有の河川景観を呈している。河川の自然空間としての性格、水辺の快適性、地域空間を結ぶ軸としての性格に留意しながら、魅力と潤いに富んだ河川景観の形成を促進する。

(サブテーマ)

自然を生かす

(展開項目)

○自然を守り、生かす

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[自然環境の保全]	1. 河川改修等においては、既存の河川内の自然をできるかぎり保全する。 [保全対象]・河道微地形、土壌、落差、瀬、窪地、中州、干潟など ・マングローブ等の水中植栽及び水辺の植物、 ・河川沿いの水防林、斜面林、その樹林、 ・小動物とその生息空間、など。	P <sup>23</sup> T <sup>23</sup> サイン3(8) P <sup>24</sup> T <sup>24</sup> サイン3(9)
[河川水の保全、浄化]	2. 良好な河川景観の形成のために、良好な水質と豊かな水量を確保する。 3. 自然涵養林等、現況の自然の保水機能・洪水調節機能を重視し、河川の汚染・汚濁物質の流入を抑え、特に上流域での良好な水源と水質の確保に努める。	P <sup>23</sup> T <sup>23</sup> サイン3(7)
[構造・工法の工夫]	4. 河川自体の水質浄化能力を高めるために、河川の自然循環系を保全し、必要に応じて人為的な方策も導入する。 [水質浄化対策]・生物処理、磯間浄化、砂ろ過処理、 ・炭素浄化、エアレーション(ばっ気)、など。 5. 自然と調和し河川周辺の動植物に配慮した河川づくりのために多自然型河川工法等の導入を検討する。	P <sup>23</sup> T <sup>23</sup> サイン3(7)  P <sup>23</sup> T <sup>23</sup> サイン3(7)

(サブテーマ)

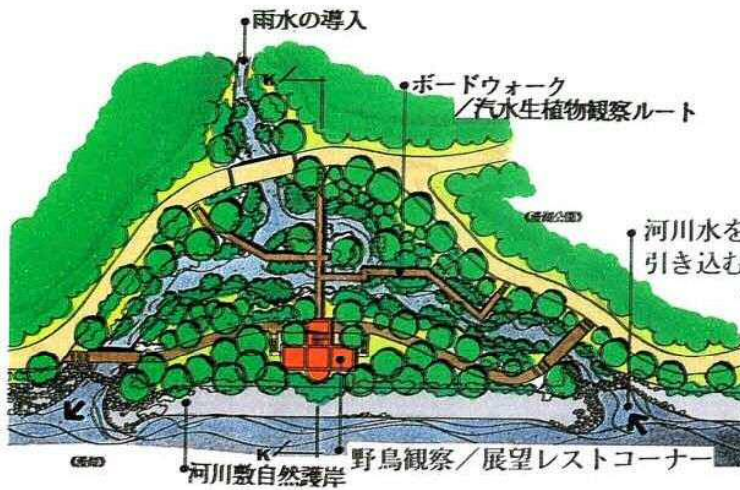
自然を生かす

(展開項目)

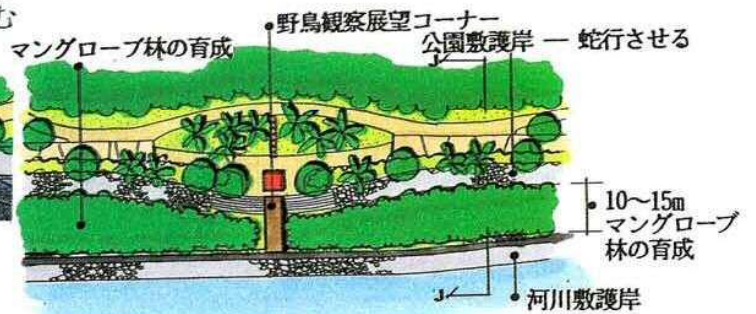
○自然を回復し創り出す。

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[自然の復元・再生]	1. 条件に応じて、要所で暗渠化された河川の水面を復活させる。 2. 自然の水辺の回復とマングローブ等の水辺の緑を復元する。また、条件に応じて要所で、ピオトフ(生育環境)など水辺の自然との身近なふれあいの場づくりを検討する。	P <sup>23</sup> T <sup>23</sup> サイン3(8)
[豊かな緑の創出]	3. 河川敷に豊かな緑を配し、できるだけ連続させる。場所によっては花木や地被・草花を積極的に植栽する。	

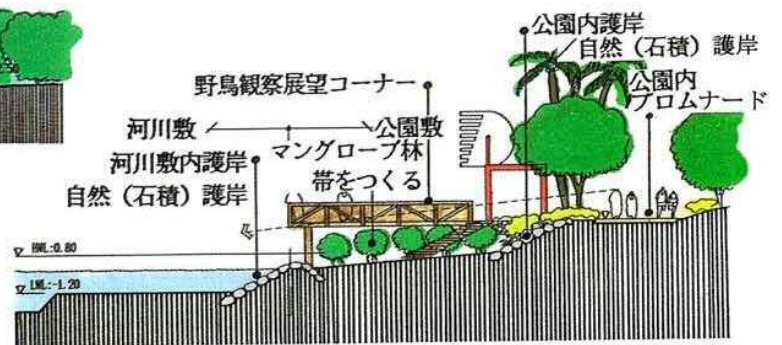




● 水際まで柔らかな緑が連続している。(シボール)



● 河川空間内で自然環境を創出する。  
(国場川・漫湖管理計画調査報告書、H. 4. 3、沖縄県)



● ウォーターフロントの自然とのふれあい空間計画モデル  
(国場川・漫湖管理計画調査報告書、H. 4. 3、沖縄県)



● 都市の河川を親しみのある水辺空間として整備している。  
(那覇市、久茂地)